

事務事業名 保育所地域活動事業

出力日：令和04年03月15日

キーコード：316

施策：	17	子育て支援の推進	財務コード	01030208-02-00
基本事業：	04	幼保サービスの充実	担当部	健康福祉部
基本事業の成果指標	待機児童数（保育所） 待機児童数（放課後児童クラブ） 保育サービスの満足度		担当課	下見保育所
			担当係	下見保育所



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～	新規・継続	継続	会計区分		実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
<ul style="list-style-type: none"> ・市民 特に（就学前の乳幼児とその保護者） （小・中学生・大学生） （地域高齢者） ・入所児童 		<p>高齢者交流 地域の高齢者を保育所に招いたり地域へ出かけ交流を行う等日頃より世代間の触れ合い活動を行い交流する。</p> <p>保育交流では、毎週水曜日は就学前の乳幼児とその保護者に保育所を開放し子育てを支援する。</p> <p>職場体験 次世代育成の為、地域の子ども会・小学生・中学生・大学生の体験学習、及び実習を受け入れている。</p>				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）		<ul style="list-style-type: none"> ・次世代の育成を通し子育てに関心を持ってもらい人権問題に対する認識を高めます。 ・世代間交流を通し地域の人々の人間性や力強く生活している姿に直接触れ、人に対する優しさや思いやりなど、身体で感じ豊かな感性が育ちます。 				

4. 成果（簡易評価は未記入）								
成果指標名称	単位	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	目標
		実績	実績	当初	要求	計画	計画	
・地域活動年間交流回数	回	66	0	70	70			
・保育交流年間参加総人数	人	143	0	200	0			

5. コスト								
事業費	計	千円	185	45	127	127		
	国	千円	0	0	0	0		
	県	千円	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	17	0	0	0		
	一般	千円	168	45	127	127		
正職員人工数	人工							
正職員人件費	千円							
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円	185	45	127	127			

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）								
あがっている	<ul style="list-style-type: none"> ・保育交流では保護者の子育て相談に応じたり、その後の一時保育の登録や入所申し込みにつながっている。 							
どちらかといえばあがっている	<ul style="list-style-type: none"> ・R元年度は大学実習、看護学校からの実習、小学校からの見学、子ども会、中学校の職場体験、異校種交流等様々な分野の交流があった。 ・創立記念の集いに、中学校の職場体験を、吹奏楽部演奏という形で参加してもらい、地域や保護者との体験の場となった。 							
あがっていない（停滞・低下）								

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）								
対象動向	増加	類似事業	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子ども会、中学生の職場体験受け入れがR元年度も多くあった。 ・地域の小学校3年生の課外授業として、保育所を学ぶ場が組み込まれ、施設内見学と意見交流の場を設けている 				
手段効率化余地	あり	コスト削減余地	なし					
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし					
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし					
成果向上余地	大きい							

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）								

今後も同和保育所として人権保育(教育)を基盤に高齢者・小中学校交流など、地域の実態に対応した事業を展開していきたい	
---	--

事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）	備考・特記事項 or 進行管理欄
<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会に開かれた児童福祉施設として地域の子育てや、支援センター的役割を担い、保育を通じて子どもの健全育成及び子育て家庭の支援を目的とする。 ・地域社会が子ども達の健全育成を願い地域や筑山中学校区の小中学校や保護者等と連携して様々な体験の場を作り取り組んでいる。 	特に無し